

青少年育成 かすみがうら市民会議 広報誌

vol.4



青少年育成を考えるつどい「中学生の主張大会」発表者集合写真

● 会長あいさつ ●

青少年育成かすみがうら市民会議 会長 酒井賢治



市民の皆様方には日頃より青少年育成かすみがうら市民会議にご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

本会は、市民の皆様方と関係各種団体のご協力をいただきながら、最大の目的である「次世代を担う青少年の健全育成」を十分に達成するために様々な活動を展開しております

皆様方からご協力いただきました会費及び協礼金は、毎年7月に開催されている青少年育成を考えるつどいを始め、青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室、ウィークエンド・コミュニケーション・スクールなどの主催事業、青少年相談員連絡協議会、市子ども会育成連合会、市立中学校立志式事業などへの補助金交付、また広報事業などへ大切に活用させていただいております。

さて、青少年育成かすみがうら市民会議としての広報紙を作成するにあたり、中学生が日頃から考えている素直な願い、将来へ向かって力強く進んでいく思い、また、日頃から活動していただいている各種団体の地道な活動をご紹介いたしたく発行する運びとなりました。

結びにあたり、青少年育成事業に一層のご理解をいただき、本会が発展していくために、ご意見等がございましたら、かすみがうら市教育委員会生涯学習課にご一報いただければ幸いです。

今後とも、市民の皆様方には「地域の親」として子どもたちを暖かく見守っていただき、より一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。



回 青少年育成かすみがうら市民会議とは

次世代を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな情操を広い視野を持った大人へと成長することは、市民すべての願いです。

その願いの実現を目指し、地域環境整備や青少年への働きかけを行うことは、我々大人の責務であるといえます。

こうした責務を果たすべく、強力な市民ぐるみの運動を展開し、次世代を担う青少年の健全育成を図ることを目的に、「青少年育成かすみがうら市民会議(以下、市民会議)」が結成されています。

回 市民会議の事業とは

市民会議では、青少年の健全育成運動の総合的企画や関係機関・団体等との連絡調整をはじめ、青少年の健全育成を推進するための各種事業の実施や関係団体への支援、青少年育成に対する関心と理解を深めるための広報・啓発活動を実施しています。

回 市民会議の活動費

市民会議は、市民会議の活動にご賛同いただいた皆様からの会費で運営しています。

会費は、青少年健全育成を目的とした事業の展開や学校、関係団体への支援に対する貴重な財源として活用させていただいております。

回 今年度の事業

- 青少年育成を考えるつどい
- 青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）
- ウィークエンド・コミュニティー・スクール（KWCS）事業
- 青少年健全育成に関する広報活動
- 新成人への記念品配付
- 親子つり大会への協賛（市子連事業）
- 青少年相談員連絡協議会の巡回・啓発活動への助成
- 中学校立志式への助成

回 会費について

会費の納入は、毎年6月頃に区長・自治会長・常会長・班長の皆様をとおしてお願いしており、一般の方には年額200円、賛助会員の方には年額1口以上（1口1,000円）を納入いただいております。

会員加入にご協力をお願いします。



青少年育成を 考えるつどい

平成27年7月26日(日) 青少年健全育成に対する理解と関心を深めることを目的とした『青少年育成を考えるつどい』を市PTA連絡協議会との共催で実施しました。

今年度はより多くの方に会場にただきたく千代田公民館講堂で開催したところ200名を超える来場者にお越しいただき盛大に開催することができました。

第一部 中学生の主張大会

第一部の「中学生の主張大会」では、市内各中学校の代表者6名が、日ごろの生活の中で感じたことや考えていることを発表しました。

それぞれの主張文をご紹介します。



霞ヶ浦中学校 3年
稲生 美歩

「もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」

これは、三年生の国語の教科書にある魯迅の「故郷」という小説の最後の部分です。この言葉には「多くの人が望むから、

多くの人が正しいと思うから、それが道となり常識になる。」という意味が込められるのだろうと、私は考えました。そして、これは、社会の仕組みを上手く表現した言葉だとも思いました。

社会には「この方が正しい」「この方が良い」と考えられる意見がたくさんあります。しかし、それが全て受け入れられるかというと、そうとは限りません。世の中には、例えばそれが良い方向であっても悪い方向であっても、より多くの人に望まれる方向にいつのまにか、転がり向かってしまう性質があるのです。そして、そんなふうには社会を転がしていくのは、いつでも一人一人の意見なのではないでしょうか。そう、この社会は、意見によって成り立っていると言っても過言ではないと思うのです。では、そんな大きな力をもつ「意見」を、私たちが使いこなしていくためには、どのようなことを意識していけばよいのでしょうか。大切なのは、一人一人が少しでも自分の意見を持つ努力をすること、意見を相手に正確に伝えることができる力を身につけていくことだと、私は考えます。

少しでも自分の意見を持っていないと、他人の意見と自分の意見を比べることができません。そのうえ、自分の意見がないために、無意識のうちに他人の意見に引きずられることにもなりかねません。

現在、私は霞ヶ浦中学校の生徒会の本部役員をしています。生徒会の会議では、それぞれがそれぞれの意見を臆することなくぶつけ合い、比較し、そうすることによって、より良い意見を求めています。何も発言しない、ましてや自分の意見さえ持てない人は、生徒会には一人としていないのです。だからこそ全員が納得で

きるまで議論を続けることができるのです。また、それだけの議論ができることにより、正確な判断が下せるのです。しかし、反対に、誰も意見を発言しない、持てない生徒会だったら、どうなっていたのでしょうか。きっと、全員が納得する結論が出せなくなり、独断的な決定や視野の狭い決定しかできなくなってしまうでしょう。そして、その消極的な姿勢は多くの生徒に伝わり、学校の雰囲気全体に悪影響を及ぼすことになったかもしれません。このことから、私は自分の意見を持つことと、はっきり意見を相手に伝えることの大切さを学んだのです。

中学校という小さな集団でさえ、自分の意見を持ち、意見を発言するということで成り立っているのです。だから、この小さな集団の中にいる中学生の時期に、自分の意見を持ち、発言することに慣れておく必要があると思います。こうすることによって、社会に出た時に、発言力だけが先走る中身の無い意見に惑わされることを防ぐことができるのです。

また、意見そのものに正解や不正解はありません。だからこそ、一人一人が自分の意見をしっかりと持って、意見の投げ掛け合いをすることが大切になってくるのです。それができれば、社会は積極性を増し、良い方向へと向かっていくでしょう。

中学校での義務教育は、あと半年で修了します。中学校を卒業すれば、周りにはもう「社会」なのです。だから、私たち若者は、「私には関係ない」「僕には分らない」と言っても、他人任せにはしていかないのです。そして、「知らない」「分からない」ということは恥ずかしいことなのだ、気づかなければいけないと思

うのです。

あなたの、私の、そしてみんなの意見が、社会という広い大地に足跡を残し、確かな道を拓くのです。「もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」まずは、自分の足跡を信じてことです。そうすれば、自ずと道は見えてくるでしょう。



千代田中学校 3年
萩原 実優

「私には、五つ年上のお姉ちゃんがいま

す。お姉ちゃんは、時には子どものように感じるときもあるのですが、とても大人のように感じることもできる不思議な人です。普通に会話をするときには、とても明るく、元気すぎるのではないかと思ってしまうほどです。いつも、私を見つけると抱きついてきます。私は、そんなお姉ちゃんと一緒にいるときには、とても楽しくて素のままの自分であることができます。

そんなお姉ちゃんですが、私が学校や部活での悩み事を相談するときには、いつもとは様子が違います。まるで別人のように真面目に話を聞いてくれるのです。私がとても悩んでいても、お姉ちゃんに話を聞いてもらうとずっと気が楽になります。時には、人生の先輩として、本当



に「なるほど。」と思うようなアドバイスをしてくれず。私は、そんなとき、「いいものお姉ちゃん」と違う。切り替えがすごいなあ。」と感心してしまいます。

他にも、驚くような場面はたくさんあります。私の家族は、みんな仲が良いのですが、私たち姉妹は、特に父と仲がよいです。しかし、私は、いくら父のことが好きでも、自分の気分が優れないとき

には、あまり一緒に遊んだりする気持ちにはなれません。それに対して、お姉ちゃんは、どんなに疲れていても、どんなにアルバイト先で嫌なことがあっても、どんなにシヨンが低くなっても、無邪気に振る舞って父と遊んでいます。家族の雰囲気悪くさせまいと、どんなときにも笑顔で生活しているのです。そんなお姉ちゃんを見ると、「大変じゃないのかな。」と思うこともあります。そんな素振りはいくら見せません。本当にすごいと思います。

また、私のお姉ちゃんは、周りの人々からとても信頼され、愛されています。例えば、アルバイト先の人々です。お姉ちゃんのアルバイト先は同年代の人が少ないそうです。先輩やおじいさん、おばあさんが多くを占めていると聞きました。「悩みを打ち明けられる人はいいるのかなあ。」と、私は少し心配になりました。しかし、お姉ちゃんの話は深く聞いてみると、そんな心配をする必要は全くないことが分かりました。お姉ちゃんは、親しくなった先輩と女子会を開いたり、おじいさんやおばあさんとお菓子を交換したりするなどして、みんなと仲がよいようです。私は、お姉ちゃんに「アルバイトを辞めたくなるときはないの。」

と聞いてみました。すると、「周りの人が、とても良い人ばかりだから続けられるのだよ。」と答えてくれました。もちろん、周りの方々の人柄もあるとは思いますが、お姉ちゃんの人柄があつてこそ、みんなが親切にしてくれるのではないかと思いました。

ここまで、お姉ちゃんの尊敬するところ

ろを述べてきましたが、私は正直、不安があります。「大人になってお姉ちゃんのような人になれるのか。」と。今の私には、周りの空気を読んで行動したり、相談を受けたら親身になって考え、精一杯の返答をしたりする自信をもつことはできません。でも、お姉ちゃんは、「人それぞれいいところは違うんだよ。実優は大丈夫。」

と言ってくれました。

私は、将来、本当にお姉ちゃんのような素敵な大人になれるのでしょうか。少し心配です。しかし、私は私なりの長所を見つけて、自分を信じて素敵な大人になっていきたいと思いました。いつかは、お姉ちゃんのような、信頼される人になることを目指して。



下稲吉中学校 3年 柴森 菜央

「ありがとう。」幼い私に祖母が何度も口にした言葉。私にとって思い出深い言葉。そして、もう二度と聞くことのできない言葉。

私は幼い頃、他人と話すのが苦手な幼稚園の友達もあまり多くはありませんでした。父と母は仕事で忙しく、兄弟もいない私は兄弟と楽しそうに遊ぶ近所の子の姿をいつもうらやましうにながめ

ていました。そんな私の面倒を見てくれたのは、祖父と祖母でした。特に祖母には、たくさん迷惑をかけました。わがままもたくさん言いました。泣いて、祖母を困らせたりもしました。しかし、祖母は嫌な顔ひとつせずに、私のわがままを聞いてくれました。そして、私にたくさんのお話をさせ、人として大切なことをたくさん教えてくれました。

そんな祖母が、私が五歳の頃に病気になりました。幼い私は、そんなことも知らずに病室へ行くと祖母と遊べるんだと思いがままを言いました。それでも祖母は、私の前ではずっと笑顔でした。本当は病気が聞かなくていいはずなのに・・・。

幼稚園の年長の五月、私が楽しみにしていた遠足がありました。祖母は、私と母を笑顔で見送ってくれました。私は、まさかその笑顔がもう見られなくなるなんて思ってもいませんでした。バスに乗り、私と母が楽しく話していると突然、一本の電話がかかってきました。

「祖母の容体が急変した。」母はその電話を受け、急いで病院へ行こうと言いましたが、幼い私は嫌だと言いました。私は、そのことを今も後悔しています。遠足から帰ってくると急いで病院へかけつけました。そこには、寝ている祖母の姿がありました。静まりかえった部屋で祖母は私の帰りを待っていてくれました。祖父が私に、「ばあちゃんの手を握ってあげなさい。」と言いました。今でも祖母の手の感触を覚えています。そして祖母は、目を覚ますことなく静かに息を引きとりました。私は祖母の「死」をすぐには理解できませんでした。祖母が寝ている。「ばあちゃん。」呼びかけても目を開けてくれ



ないし、返事もしてくれない。手を握ると、いつもの祖母の手の温かさが消えていく。そうか、ばあちゃんは、もう……。そのとき私は、初めて大切な人を失う悲しみを知りました。もう二度と、あの優しい声を聞くことも、温かな笑顔を見ることもできないんだ。そう思うと、涙があふれてきました。どんなときも私の味方で、優しく、強くて、私のあこがれ

だった祖母ともう会えないんだ。あのとき、遠足に行かなければ、わがままを言わなければ……。後悔と悲しみだけが私の心に残っていました。

「ありがとう。」祖母の声が突然私の頭をよぎりました。私が祖母から教えてもらったことで一番心に残っていること。それは、感謝の心です。誰かに何かをしてもらったら、ありがとうの気持ちを伝えるんだよ。そして、友達もいっぱいできるんだよ。祖母にちゃんと「ありがとう。」を伝えたかった……。私は祖母に何もしてあげることができませんでした。だから私は、祖母に見られても恥ずかしくない人間になろうと思います。祖母は、きっと私のことを見守ってくれています。祖母が私に感謝の心を教えてくれたおかげで、私の周りには、たくさんの最高の友達がいてくれます。

私に、感謝の心を教えてくれた祖母にはもちろん、ここまで私を育ててくれた両親や家族、たくさんの友達、そして、私を支えてくれる多くの人達に普段からの感謝の気持ちを伝えたいです。私は、まだまだ未熟で、できないことや、足りないものがたくさんありますが、祖母から教えてもらったことを忘れずに、強く生きていきたいです。



霞ヶ浦中学校 3年
初鳥 涼葉

最近、テレビから流れてくるニュースには、かなりの衝撃を受けることがあります。

「お金が欲しかった。」「人を殺してみたかった。」などという、自分勝手な、いとも簡単な理由で、何の罪もない、ほとんど面識もない人を殺してしまう事件が、あまりにも多いように思えてならないのです。そして、このような事件が、中学生や高校生などの未成年者によって引き起こされることが多いことに、悲しさや虚しさを感じ、激しい憤りを覚えるのは、私だけでしょうか。なぜ、このような残酷で、自分勝手なことができるのか、私には理解できないのです。

中学一年生の男子が、裸で川を泳がされ、ナイフで切りつけられた、神奈川県川崎市での事件は、皆さんの記憶にも新しい事件の一つではないでしょうか。「なぜ、あの少年を救えなかったのか」「どうして、あの少年は死ななければいけなかったのか」。画面に映し出される河川敷の多くの献花と共に、多くの「なぜ」「どうして」が、繰り返されたことが忘れられません。私の心の中で、「お母さんは何をしていたのか」「近所や学校など、周囲の人々はどうしていたのか」など、いくつもの疑

問がわき上がりました。そして、どうして、このような事件が起こるのか。多発する社会になってしまったのか。と、未来への不安も感じずにはいられませんでした。現代社会に於いて、親からの愛情を受け取れず、きちんと躰けられなかった子どもは非行に走る傾向が強いと言われます。優しさを与えられなかった子どもは「優しさ」の意味が分からず、他人の痛みを考えることもできない、冷たい人間に育ってしまうことなのではないでしょうか。

私は、両親と弟、妹の五大家族です。私は両親からたくさん愛情をもらって、ここまで育ってきたと感じています。五歳くらいの時、母の言うことを聞かず、わがままを言い続け、父にもものすごく叱られたことがあります。本気で怒る父を「怖い」と初めて感じたのは、この時だったかもしれません。もちろん、「優しさ」は愛情の一つですが、私は両親から「厳しさ」という愛情をもらってきたのだと、そして、それは、有り難いことだったのだと、今、心から思えるのです。

また、現代社会の問題には、コミュニケーション能力の低下が挙げられます。屋内でそれも一人で遊ぶ子どもが増加。部屋に一人でいても、通信機器を使ってありとあらゆることが可能になり、ゲームの中ではリセットボタン一つで操っていたものが生き返り、何度でもやり直せることを学習してしまいます。周囲との付き合い方を知らず、自分の思い通りにならなければ何度でもやり直せば良いと学んでしまう子どもたちがいるのです。

私は小学二年生からスポーツ少年団でバレーボールを始めました。バレーボールは落とせば負けのスポーツです。チームメイトとは声を掛け合い、コミュニケー

シヨンを取らなければ、ボールは落ちて落ちてしまいます。また、監督の存在は家族とも学校の先生とも全く違うもので、緊張する場面も多くありました。チームメイトは、仲間で在りながらライバルでもあり、後輩として、先輩として、選手として、エースとして、キャプテンとして、それぞれの立場での役目があり、責任を果たすことの必要性も教えられました。

今、私が、優しさも厳しさも愛情の一つと考えられるのは、私の周囲にいてくれた人たちが皆さんの力です。だから、悪いことはできない、人を悲しませることはできないと思える気持ちがあるのだと思います。

「お金は欲しい。でも、周囲には迷惑はかけられない。」辛いけど、人は傷つけてはいけない。」と思えたら、悲しい事件は減るように思います。

犯罪という恐ろしい事件を連鎖させないためにも、一人一人がコミュニケーションを大切にしていくなきゃと思うのです。



千代田中学校 3年
沼尻 美咲希

皆さんは、自分の本当の性格、姿を知っていますか。親が私たちの性格などを決めつけたりして、本当の自分を出したこ

とが無い人のほうが多いのではないのでしょうか。

私が、小学校に入学したときのことでした。日常生活の中で友だちからこんなことを言われたことがあります。「男の子みたいで、話しづらい。」と。最初の頃は、兄が二人いることが原因で言われているだけだと思っていました。しかし、小さい頃からやんちゃだった性格は、直そうとしてもそう簡単に直るものではありませんでした。親からは、「もっと女の子らしい言葉遣いをしなさい。」などとも言われ、その通りにしていたら、今ではどんな自分になっていたのでしょうか。

そんなある日。中学校生活にも慣れ始め、いつも通りに学校から帰ってきた時のことでした。保育所ときからずっと一緒に友達がいっぱい話してきて楽しかった。」とつぶやいたのです。そのときです。本当の自分について考えていた私の中の何かにひびが入り、くずれていったのが。しかし、そのときは、そんな不安を相手に気付かれないように話しを続けたのを、今でも覚えています。

その後、家に帰り、私は自分の部屋で泣き続けました。本当の自分分が分からなくなっていた私にとっては、とても辛く、苦しい言葉だったのです。泣き疲れた後、ふと部屋を見渡すと、昔のアルバムがありました。ページを開くと、笑顔の私が見えました。昔のように素直に笑うことができないうちに、作り笑いを浮かべるしかできない自分に、腹が立って仕方がありませんでした。

それから時間が過ぎ、今、中学三年生の私は、未だに自分が分かりません。こんな自分でも一つだけ変わったことがあります。それは、作り笑いだけでなく、少

しずつですが、自然な表情が出てきて、前よりも学校に楽しく登校できるようになってきたことです。しかし、その反面、表情が増えたことにより、周りの目を意識して生活している自分があることにも気付いています。戸惑いながら生活しているのです。

また、こんな自分に気付きはじめてから考えることもあります。それは、本当の自分を友達や家族に見せられないことで、心配をかけていないかと。それから、自分が考えていることが、相手に伝えられているのかと自分自身に問うようになりました。

今、私は、周りの友達に伝えたいことがたくさんあり、また、こんな風になっ

てほしいという願いをもっています。まず、親や友達に対して、自分の理想を押しつけることで相手の気持ちを壊し、本当の自分を見失うような言葉を発しないでください。ささいなことが原因で、ひきこもりなどの問題になってしまいうこともあります。そんなことを考えると、軽い気持ちで発してよい言葉は一つもないでしょう。

また、皆さんには、絶対にいじめの加害者や被害者にならないようにしてほしいと思います。軽い気持ちで発した言葉が原因で自分を見失ってしまい、部屋に引きこもってしまったら、学校に来ることができなくなってしまう生徒がいたとしたら、その生徒は被害者となり、言葉を発した生徒は加害者となってしまいます。私は皆さんに、このような悲しい事件に巻き込まれてほしくないのです。自分の発言が、相手にどのような影響を与えるかを考えることを忘れてはいけません。

たくさん悩んできた自分ですが、一つだけ分かってきたことがあります。私に必要なのは、人をいたわる言葉を発することができるといふ心と、軽い気持ちで言われた言葉を受け流せるような強い心です。

本当の自分を探すために、これからも自分を信じて歩いて行きたいと思っています。



下稲吉中学校 3年
内山 結愛

私のレスリング人生が始まったのは、幼稚園年中の五才の頃でした。あの時この「レスリング」という競技に出会っていなかつたら今の私はいなかつたと思います。レスリングを始めた頃は、ただレスリングが楽しくて、大好きで毎日練習を無我夢中に頑張っていました。そして、毎日の練習の成果が実り、小学四年で全国選抜で優勝することができたのです。ですがその後は結果が出ず、レスリングが嫌いになっていきました。「普通の女の子になりたい」「減量やだ」「つまらない」「勝てない」「レスリングやめたい」そう思うようになってしまったのです。レスリングの楽しさが分からなくなり、それからというもの、あまりレスリングに打ち込めず、嫌々やっていました。

そんな中学二年になったある日、指導者が変わり、練習の曜日が増え、全てに

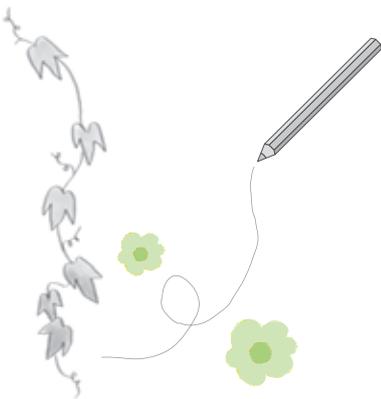


関して厳しくなり、練習がきつくなりまりました。でも私はなぜか、そんなきつい練習が大好きになったのです。「レスリングをやめたい」そんな気持ちは、これっぽちもなくなっていたのです。レスリングマットは「血」「汗」「涙」を流す場所。無我夢中に努力して努力してひたすら練習をしました。ですがそんな簡単にすぐ結果はついてきませんでした。ある日、負けて泣いている私に声をかけてくれた人がいました。「勝った人より負けた人の方が色々学ぶよね。努力は絶対裏切らない。報われるまで頑張り続けるの。」そういつてくれたのです。それから私のなにかが動きました。自分を見つめ直し一からやり直しました。

そして中学三年になって初めて全国で表彰台に乗れたのです。何度も挫折を味わった自分だからこそ味わえた喜びでした。「レスリングをやってよかった。」そう思えた幸せな瞬間でした。私はレスリングを通して、人として大切な礼儀、努力の大切さ、何事も貫く根性、色々な事を学ばせてもらいました。レスリングは素晴らしい競技、そう胸を張って言いたいのです。でも競技人口は少なく、友達を誘ってみると返ってくる答えは「痛そう」「怖い」そう言われたのです。私の中でこんなに目標に向かって無我夢中に死に物狂いで頑張れるのはレスリングだけです。確かに格闘技だから痛いと思う事もあるけれど、それを乗り越え、耐えたからこそそれ以上の思いが湧きでてくるんです。それにレスリングのおかげで、色々な出会いがありました。一緒に目標へ向かって頑張っていくチーム、同じ頂点を目指すライバル、私を強くしてくれる監督コーチ、私を支えてくれる全ての方に感謝し

たいです。それに、レスリングという道に歩ませてくれた親に一番感謝したいです。私がこうやって努力し続ける事ができるのもこのようなたくさんの支えがあるからです。私が努力する意味はもちろん、勝つためです。それが今私ができる恩返しだと思います。「試合で勝つ」だから自分のためにも、私を応援し、支えてくれている方々のためにも私は努力し続けたい。そう思うのです。努力する事に決して無駄はありません。私はレスリングに出会えた事で、努力する楽しさ、嬉しさ、こんな感情を感じられ、自分の殻を破り、新しい自分を見つける事ができました。

これから先、何が起こるかわかりません。きっとたくさんの困難や挫折を味わう事だと思えます。でも常に自分を持ち、仲間を信じ、どんな時でも挫けず努力し続ける心をいつまでも持っていたいです。努力の先にはきっと笑顔がまっています。「努力」この言葉は人生で最も大切なことだと思えます。だから私は、これからもレスリングを続け、努力し続けたいです。



青少年育成を考えるつどい

第二部 講演会

「おした笑顔になあれ…」

夜回り先生、命の授業

講師 教育評論家 水谷修氏



第2部の講演会は、テレビでお馴染みの教育評論家である水谷修氏から、夜回り活動に基づく実体験から、小・中学生の非行防止、薬物汚染の拡大の防止など、いま子どもたちが直面している様々な問題について熱く語っていただきました。

平成27年度 少年の主張茨城県大会

平成27年9月26日(土)に鹿嶋勤労文化会館にて、公益社団法人茨城県青少年育成協会及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催による「少年の主張茨城県大会」が開催されました。

この大会へは市内中学校から284名からの応募があり、学校から推薦のあった6名の主張文を提出いたしました。

なお、茨城県全体では134の中学校から18,088名の応募がありましたが、審査の結果、霞ヶ浦中学校の稲生美歩さんの主張文が10名の発表者に出され、厳かな雰囲気の中堂々とした姿で発表していただきました。

氏名	学校・学年	タイトル
稲生 美歩	霞ヶ浦中・3年	足跡が拓く未来
初鳥 涼葉	霞ヶ浦中・3年	愛情とコミュニケーション
沼尻美咲希	千代田中・3年	本当の自分とは
北澤 諒	千代田中・3年	「何」のために…?
柴森 菜央	下稲吉中・3年	祖母の教え
内山 結愛	下稲吉中・3年	努力の価値

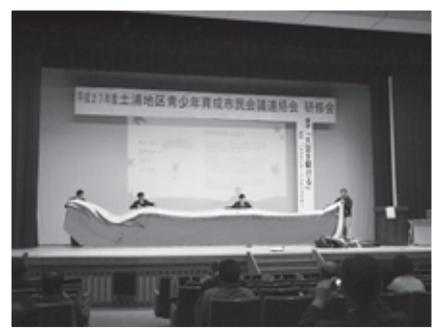
研修会等へ参加しました

土浦地区

青少年育成市民会議連絡会研修会

平成27年11月15日(日)

石岡市中央公民館



青少年健全育成茨城県推進大会

平成28年2月23日(火)

茨城県立県民文化センター



かすみがうら市 青少年相談員 連絡協議会

青少年健全育成に関する関心と理解を深めるための啓発活動や、環境浄化を推進することを目的とする様々な活動を行っています。

- ①巡回活動／青色防犯パトロール車にて毎月2回市内の施設や店舗を中心として巡回しています。また、ふれあい生涯学習フェア、かすみがうら祭などの市内で開催されるイベントでも巡回指導を行いました。
- ②あいさつ・声かけ運動／生徒が登校する時間にあわせ、市内3中学校であいさつと声かけを行いました。
- ③啓発活動／神立駅での非行防止キャンペーンや市内のイベントにて、多くの方に青少年健全育成への理解を呼びかけました。
- ④視察研修／青少年相談員としての更なる資質の向上を目指して、青少年関係施設を視察しています。今年度は、12月18日(金)に牛久市にある茨城農芸学院を訪問し、社会適応に必要な各種訓練を指導している現場の姿を視察研修してきました。
- ⑤店舗への訪問活動／コンビニエンスストアなどの商業施設を訪問し、「青少年健全育成に協力する店」として良好な環境づくりへの協力をお願いしました。なお、市内では現在28店舗にご協力いただいております。



第5ブロック研修会の様子



市内3中学校で行われた、あいさつ声かけ運動



神立駅前で行われた非行防止キャンペーンの様子

KwCS

かずみがうら市 ウィークエンド・コミュニティー・スクール 事業

市内に住む児童・生徒を対象とし、心豊かな人間性と郷土を愛する心を育むことを目的に、学校や家庭などの日常生活では経験できないような体験学習を関係機関、団体、組織が一体となって実施する事業です。

今年度は、ふれあい生涯学習フェアの際にロボットに関する2つの教室、親子凧あげ教室、親子ラグビー教室の4つの事業を実施し、延べ218人の参加がありました。



▶親子凧あげ教室



▶ロボットスクールで車を組み立てよう！



▶親子ラグビー教室



▶サッカーロボット体験操縦

青少年心身健全育成事業

ジュニア和太鼓教室

市内の小学生3年生から中学3年生を対象に、かずみがうら市体育センターを会場に開催し18名の参加者が7月の猛暑の時期から練習を開始しました。あゆみ太鼓の方々の指導の下、バチの持ち方や構え方などの基本的なことから始め、7回の教室を経たのちに10月のふれあい生涯学習フェア、11月のかずみがうら祭では課題曲を堂々とした姿を披露することができました。



高校生が

活躍しました

市内の高校生のみなさんが、ふれあい生涯学習フェアへボランティアとして参加しました。KWCSの運営補助やマスケットキャラクターを着ていただき会場を盛り上げていただきました。



高校生会の活動を

再開しました

活動休止中でありました高校生会が今年度5名の入会により活動を再開しています。市内祭事へのボランティア活動や、自ら企画する様々なイベントなどを通して会員相互や地域の人たちとの交流を図り、高校生会が盛り上がりつついくことが期待されます。



市子ども会育成連合会事業

親子つり大会

平成27年5月30日(土)に上佐谷地区の雪入川で「親子つり大会」が開催され264名の親子が参加しました。今年度も当事業に青少年育成かずみがうら市民会議から経費の一部を補助し開催されています。

天候にも恵まれ、新緑に囲まれたのどかな雰囲気なかで、のんびりと自然にふれあった1日となりました。



推進している運動をご紹介します

「あいさつ・声かけ運動」

まず、大人から子どもにあいさつ・声かけを始めてみましょう！

「あいさつ・声かけ運動」は、家庭、学校、地域で、大人と子ども・大人同士・子ども同士のコミュニケーションを広げる運動です。

青少年が、将来への夢や希望をもっていきいきと成長していくためには、地域社会の大人たちが、学校や家庭と連携を図りながら支援していく必要があります。

あいさつは、人と人をつなぐ魔法の言葉。誰でも使えるステキな言葉。

みんなが使えば街はきっと明るくなる。

まずは、あなたから使ってみませんか？

ほらっ、あんがいカンタン。

けっこうウレシイ。

親が変われば、子どもも変わる運動

すべての親がよりよい親を目指して...

いつの時代にも、次代を担う青少年を健全に育てていくことは、親や大人の使命です。

急激な社会環境の変化の中で、青少年問題は顕著になっていきます。

「子どもは社会を映す鏡」と言われていますように、青少年問題の背景には、親や大人の生き方や社会のあり方が深く関わっています。

私たち親や大人は、これらのことを自覚して自らの生き方を見直し、姿勢を正していかなければなりません。

青少年の人格形成には、日常生活における親の子どもへの関わりが大きく影響します。親が、子どもたちのよい手本となるよう親自身が変わっていく必要があります。



青少年育成かすみがうら市民会議

事務局 かすみがうら市教育委員会生涯学習課
 〒300-0134 茨城県かすみがうら市深谷 3719-1
 TEL.029-897-0511 FAX.029-898-2965

発行日：平成28年3月18日